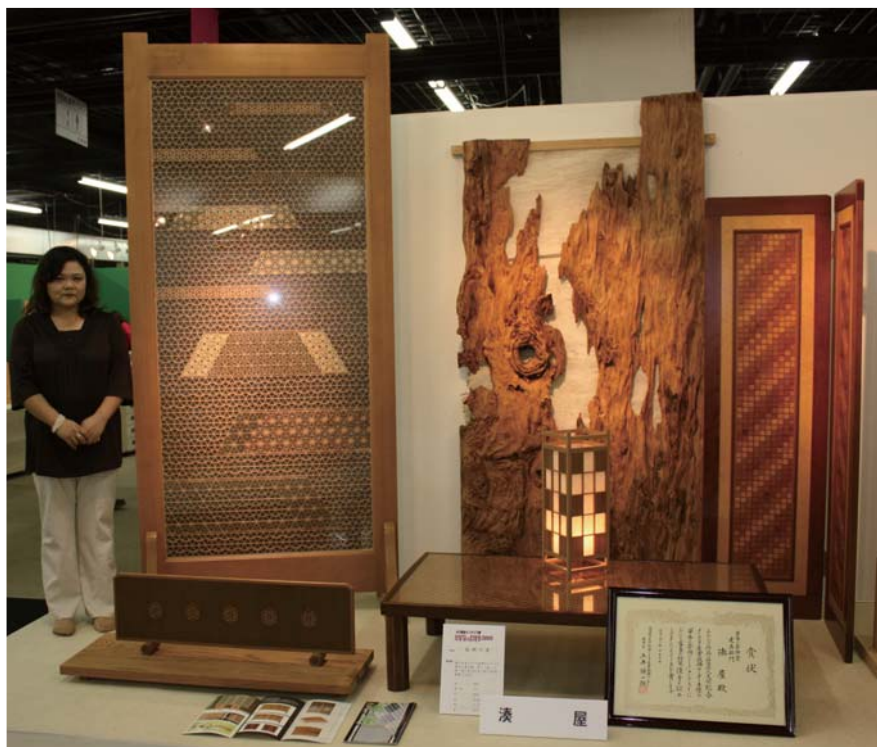


第60回大川木工まつりで華胄の夢博賞を受賞された志岐浩実さん、酒見俊郎さんにインタビューしました。



建具部門「龍郷の里」

# 良い作品は、時が流れても 価値を失うことはない

湊屋

志岐浩実さん



制作者の湊屋 志岐浩実さん  
にお話を伺った。

組子細工は、網代、四つ目、  
亀甲、八角、椀組、籠目などの  
基本技術を活用して、幾何学的  
な文様を織り込みながら、感性  
を自在に表現していく。

今回の作品は、審査員講評で、  
そのデザイン性が高く評価され  
た。しかも将来性を感じさせる  
ということであった。

作品のタイトルは、大島紬の  
古典である龍郷柄の発祥、龍郷  
の里。「龍郷柄はソテツの葉や  
ハブのウロコを表現しています。  
それらをモチーフに造ってみま  
した。また奄美大島の紬、海、  
島々、樹、風、光を感じさせる  
空間をイメージしています。」  
と浩実さんはいう。

紬は結界、海・島々は引き戸、  
山は屏風、樹は原木杉のオブ  
ジェ。風はテーブル。光は行灯

という風に表現している。

二十歳でこの世界に入った。  
しかし、二十四歳の時父が亡く  
なり、あまり教わる事ができ  
なかった。それ以降、独自に研  
究し、技術や感性をみがいてき  
た。いつも意識しているのはプ  
ラス思考。「暗くなると嫌なこ  
とがやってくるような気がしま  
す。だから悔やまない。いらい  
らない。楽しく仕事をさせて



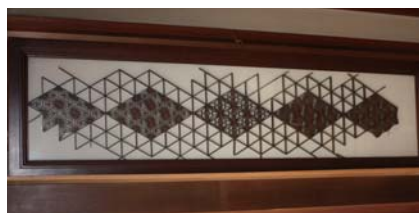
もらっているという気持ちです。

二〇〇〇年以上も生育してきた  
貴重な木々を使って、仕事をさ  
せてもらっているのですから……」

江戸時代から続く、湊屋の伝  
統を大切にしている。源助、惣  
吉、利八、政吉、信夫、浩実さ  
んと代々続いている伝統をハッ  
クポーンに、今後さらに魂のこ  
もった良い作品を造りたいと願  
っている。

「本当に良い作品は、時が流  
れてもその価値を失うことはな  
いと思います。そうした作品に  
一歩でも近づけるように技術だ  
けでなく、心も一生懸命に磨い  
ていきたいと思っています。作  
品には作者の人間性が必ず反映  
するからです。」

前進し続ける浩実さんの作品  
作りに期待したい。



惣吉さんの作品

# 開発に力を入れれば、顧客の目に訴えかける良い製品になる



家具部門『CORRENTE』



(株)丸庄  
社長 酒見 俊郎 さん

「もう引き出せませすし、テレビボードはスリットがあるので扉を閉めたまま、リモコンを操作できます。またソファアの背面は、仕切り面にも活用できるように設計しています。例えば、ダイニングとリビングの仕切りに使えます。」

「一年がかりの開発であった。でも、開発に力を入れれば、そ

れだけ顧客の目に訴えかける良い製品になります。骨の折れる作業でしたが、デザイナーと話し合いつつ、作り上げてきました。たとえばソファは三回も作り直していますよ。」今回の作品には特に思い入れがある。その訳を「三ヶ月前に他界したうちの家内の意見を聞きながら作ってきたし、気に入っていた作品でもあったからです。」としみじみ話してくださいました。

十一月十一日から十三日にかけて、東京ビッグサイトで開かれる、日本最大規模の住宅、建築関連専門展示会「Japan Home and Building Show」にも出品する。住友林業、積水ハウスなどの大手の評価も高い。

「今後はハウスメーカー、建築、住宅関連業者向けの高級志向の家具開発に力を入れていきたい」と酒見さんは力強く話している。



テレビボードとソファ